

委員会

産建文教 中央公民館の耐震診断の結果は安全値を下回る

6月12日に本委員会を開催し、請願審査2件と所管事務調査を行いました。

初めに、(仮称)雪舟町線の町道認定の請願で現地調査を行い、課題が残るとして継続審査となりました。

教育予算の拡充を求める請願は、社会経済不安のなかで家庭の所得によって子どもたちの教育に影響がでないように公教育の基盤充実に必要であるとして、全会一致で採択となりました。

産業振興課から、アルカディア財団の平成20年度の事業報告がありました。

委員からは、人件費の削減が働く人の意欲に影響するのではないか、町と財団の資産の区別や処理をどうするのかという意見がありました。

その後、町内の景況と緊急経済対策の状況や土地改良事業の状況について説明を受けました。

教育委員会から、教育施設の整備事業の主なものは、

- ・蚕桑・東根小学校(体育館)の地震補強工事
- ・スクールバスとして中型バス3台を購入
- ・鮎貝・東根小学校(プール)の塗装工事



現地調査(東高玉)

- ・学校給食共同調理場の排気フード等の改修工事
- ・ソフトボール場ダックアウトの塗装工事

などであるとの説明を受けました。

中央公民館の公民館棟と大ホールの耐震診断結果は安全の判定基準値を下回るため補強が必要。

大ホールは屋根面のブレースの補強と、屋根裏のアスベスト対策は補強設計時に別途考慮する必要があるという結果だったとの説明を受けました。

建設水道課から、下水処理施設の整備状況について、昨年度からの整備の進捗率は63%との説明を受けその後、浄化管理センター下水処理施設の現地調査を行いました。

特別委員会

委員から、当局は株式会社にした意向で、すでに株式会社概要や人事まで決まっていると口コミで広まっている状況ではないのか。

株式会社とNPOどちらでも変わらないとの説明であるが、株式会社は最終的には株主への配当を目的とするので基本的に違うと思います。NPOで町民参加型の管理運営をしていくべきではないかとの質問がありました。

当局からは、多くの町民に愛され、足を運んでもらえる施設になるよう誰もが使いやすい、文化芸術を体験、創造できる機会が創出できるように工夫し、地域に根ざした文化保全や新たな考えの導入をはかる、あるいは白鷹を全国に発信していくことを基本として、最も良い管理運営の方法はNPOを基本に考えるとの回答がありました。